

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1270500349
法人名	社会福祉法人 友和会
事業所名	グループホーム あさざり
所在地	〒267-0057 千葉県千葉市緑区大木戸町1200-69 (電 話) 043-205-6601
評価機関名	特定非営利活動法人ACOB A
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成20年3月28日 評価確定日 平成20年4月12日

【情報提供票より】 (平成20年3月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9人 非常勤 9人 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1・2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (180,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	380 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 昼食に含む 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年3月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護 1	3	要介護 2	4
要介護 3	10	要介護 4	1
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 82.7 歳	最低 64 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院、篠崎医院、坂の上外科、柏戸病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、緑が多く広々とした静かな環境にある。事業所独自の理念「ゆっくりと楽しく、自由とありのままの暮らし、一緒にケア・お互いにケアされるケア、暮らしの喜びと自信、いつも一緒・馴染の環境」を掲げ、散歩での挨拶を通じての地域の人達との交流や敬老会での中学生のボランティア体験等熱心に取り組む、地域の中での普通の暮らしが実践されている。広々とした、清潔で掃除が行き届いた居室に、利用者は馴染の物を持ち込んで、自分のペースで静かにのんびりと暮らしている。廊下にはイラストの得意な利用者の作品や行事の写真が展示され、家庭的で温かい雰囲気が醸し出されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>運営理念はホーム入口に掲示され、カラー文字で大きく見やすくなっている。又口腔ケアは毎食後、各自がやりやすい時間帯や場所で実施されるように改善されている。さらにホーム独自の取組みとして「骨折予防パンツ」を家族の協力を得て作成し、安全な暮らしを願う家族の思いを実現している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員全員の自己の職務実践の振り返りや確認内容を施設長に報告する等して実施した。改善が必要とされる点については、より具体的に改善に取り組む姿勢が示されている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>隔月毎の運営推進会議において「転落予防の為、階段の柵設置の提案」があった。事故防止の観点からの家族と現場の要望と、身体拘束に当たるのではという管理者の懸念がぶつかった時に、夜間限定で柵使用という助言があった。運営推進会議の構成メンバーとして新たに、町会長や老人会会長にも呼び掛ける予定である。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>毎月のホーム通信「福寿草」への関心をより高めてもらえるよう、全体的内容から個人的内容を多くするようにシフトする予定である。又、家族面会時や運営推進会議での家族代表からの要望・意見を汲み取っている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域の町内会、老人会等の地元との窓口は併設の特別養護老人ホーム千寿苑の施設長が担当している。地域での清掃活動では、利用者や職員がゴミ袋を持って参加している。敬老会では地元の中学生や町内会有志が、車やトイレ誘導等のボランティアとして活動し世代間交流も兼ねるなど、地域に開かれたホームになっている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの皆で考えた事業所独自の5つの基本理念<・ゆったりと楽しく・自由とありのままの暮らし・一緒にのケア お互いにケアされるケア・暮らしの喜びと自信を・いつも一緒に 馴染みの環境>があり、重要事項説明書への明記や玄関正面への掲示など広報にも務めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者に接する時、緊急時以外は忙しそうに走ったり動き回らない、ゆったりとした雰囲気利用者が話しかけ易いようにするなど、常に理念の共有と実践に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として草取りや清掃活動等、各種行事に参加している。中学校を会場にした敬老会は町内会のほか毎年中学生がボランティアで参加し、世代間交流も兼ねている。又、菜園の野菜作りは近くの農家の方が先生であり、地域に溶け込んだ交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価での指摘事項の①口腔ケアについては毎食後の歯磨きの導入②基本理念の掲示等を、真摯に受け止め改善を図る積極的な取り組みがみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は昨年1月からは隔月での開催が可能になり、運営状況や情報の報告・家族会からの要望など話し合いをしている。メンバーとして新たに町会長や老人会会長に呼び掛ける予定である。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	○市町村との連携	「認知症サポーター養成講座」のキャラバンメイト（講師役）をしたり、事業所の体制について相談している。また参加している千葉市グループホーム連絡会に市担当職員の出席を要請するなど密に行き来する機会をつくっており、サービスの質の向上に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告	家族面会時や健康状態に変化があった時の報告や毎月の請求書発送時に、ホーム通信「福寿草」・小遣い明細を同封して毎日の暮らしぶりなどお知らせしている。将来的には利用者一人ひとりに特化した「福寿草」通信にしたいと計画している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
8	15	○運営に関する家族等意見の反映	家族面会時や運営推進会議での家族会代表からの要望・意見を汲み取っている。安全性に配慮して欲しいという家族の要望により、検討の結果2F階段入り口に夜間限定使用の柵を設置した。	○	利用者家族からは多くの、職員の親身の対応への感謝の言葉があるが、職員によっては利用者への対応が異なる不安も意見として挙がっている。このような懸念を解消する為の、より一層の努力が期待される。
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮	異動の場合、約一ヶ月間の引継ぎ期間を設ける、2年未満の職員の異動は無いように配慮している。採用に当たっては長く勤務できる人を採用するなどしている。併設事業所への異動の場合は対応しやすく、利用者へのダメージを防ぐ配慮となっている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部内での研修や勉強会(緊急対応としてAEDの使用方法・誤嚥対処法・オムツの当て方など)を実施している。外部研修(認知症実践講座・コミュニケーション技術・救急法など)は研修扱い(参加費・旅費・時給等会社負担)で受講を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に参加しており同業者との交流を大切に捉えている。事例研究などの勉強会やセンター方式を導入した先輩事業所からアドバイスをもらったりして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間から1ヶ月ほどの短期入所をしてもらう、外泊や家族の来所等で徐々に馴染んでもらうなどの工夫をし、本人の納得の上でのサービスの提供に努めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年中行事や言い伝え、慣わし、浴衣の着方などを教えてもらい、利用者を人生の先輩として敬い、四季折々にいろいろ知恵を授けてもらっている。自宅にあった三味線や裁縫箱を持ち込み楽しんでいる方もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いや希望の把握に努め、その人らしい生活(計算や漢字書き取り学習する、茶碗洗いを率先して行う、ぬり絵や切り絵作成するなど)の継続を支援している。困難な場合は利用者の動きや表情から読みとる、家族から伺うなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月毎にケアプラン会議を持ち、本人の希望・家族の意見、職員の意見や考え等、利用者の出来ることに注目した考え(ICF)を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しの他に、利用者の体調の変化や突発事故など、状態に変化があった時はその都度に見直しして、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設を利用しての短期入所やリハビリ機器の利用などを行っている。花見・盆踊り・敬老会などのイベント的行事はいつも共同で行っており、いつもと異なる顔ぶれの大勢の人との接点があるなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input type="checkbox"/> かかりつけ医が緑区内であれば受診時の送迎をしている。緑区外での受診時の送迎は、家族が利用者の現在の体調を把握する機会でもあり、同時に利用者と家族が触れ合う大切なひと時でもあると捉え、家族に協力をお願いしている。		
19	47	<input type="checkbox"/> 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 入居時にホームとしての考え方を示した「重度化した場合における対応に係る指針について」の文書を、利用者・家族に充分説明し同意を得て記名押印をいただいている。グループホーム連絡会の事例発表会で、容態に応じた必要なこと、医師との関わりなど学んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input type="checkbox"/> トイレ誘導や着替えなど仲間のいる前でのあからさまな声掛けはしない、さりげない誘導をする等一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない様になっている。記録等は時には利用者の前で記載することもあるが、扱いには充分注意している。		
21	52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input type="checkbox"/> 一人ひとりのその人らしい暮らし(漢字や計算ドリルが趣味の方・飾り物作りが得意な方など)をそれぞれの個性に合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	配膳や後片付け・食器洗いなどそれぞれ出来ることを一緒にしている。ホームの家庭菜園でみんなで育てた野菜をメニューに取り入れたり、壁面には利用者の作品が飾られており、楽しい雰囲気の食事をしている。		
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	週3回以上の入浴であるが、ホームの都合で現在は、大浴場での入浴のみなので、お元気な方で希望者には個浴対応も検討している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	食後の片付けや食器洗いを率先してやる方、その場を和やかにする方など、一人ひとりの生活歴や出来ること・出来そうなことを活かした支援をしている。		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	散歩には好条件の環境下であり、天気の良い時はなるべく戸外に出るようにしている。買い物は週1～2回あり、近くの公園への四季の花を観に出かけたり、川沿いで鯉のぼり流しの見物など楽しんでいる。野球観戦や近くの千葉市立動物園などにも行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	日常的には利用者の所在を確認して、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立会いで訓練の他、年2回以上の防災訓練は併設の施設や近隣の事業所と合同で行っている。自主訓練では防火扉の開閉、通報装置や消火器の使い方など行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師から指示がある場合は摂取量の調整・好み等を考慮した一人ひとりの対応をしている。食事と水分摂取量は毎回確認している。摂取量の少ないときは回数を増やす・代わりのものを用意するなどして対応している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には手作りのカレンダーや外出した時の写真や装飾品を飾り、和やかな雰囲気を醸し出している。日差しの強い時はロールカーテンを使用して光の加減を調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具やベッド・机・椅子・観葉植物やTV・冷蔵庫など使い慣れたものが使用され、それぞれ居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※ は、重点項目。